



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日頃から赤十字の活動にご理解、ご支援をたまわり、ありがとうございます。

近年、日本国内で自然災害は、ますます頻発化、激甚化しています。日本赤十字社はその発災直後から、医師や看護師等からなる救護班やこころのケア班を被災地に派遣し、また自治体や多くの赤十字ボランティアと協力して、毛布や安眠セット等の救援物資を配布するなど、様々な支援を実施しております。

また海外のいたるところで発生している武力紛争は、収束の兆しをみせません。温暖化による洪水や干ばつなども世界中で多発しています。こうした紛争や自然災害によって発生する人道危機に対して、日本赤十字社は世界各国の赤十字・赤新月社と連携し、支援活動を展開しています。

このような活動を続ける日本赤十字社は、来年令和9年に創立150周年を迎えます。私たちはこの節目を、「苦しみの中にいるものは区別なく救う」という赤十字の創立の理念、その理念を受け「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守る」とした日本赤十字社の使命を、将来に向けて実現し続けられるようにするために、なすべきことを考える契機といたします。高齢化という人口動態の変化、AIに象徴される技術革新、紛争の頻発する地政学的変化、そして温暖化という気候変動、こうした大きな構造変化の中で、決して変わることはない赤十字の理念と使命を実現し続けていくために、必要な改革をしっかりと進めていく所存です。

毎年5月は、1901年に第1回ノーベル平和賞を受賞した赤十字の創始者アンリー・デュナンの誕生日（5月8日）にちなみ、赤十字活動を普及するための「赤十字運動月間」としてしています。この機会に赤十字の活動へのご理解をさらに深めて頂ければ幸いです。

私たちの活動はこれまでも皆さまのご支援によって可能となりました。これからもさらに多くの方々にご参加とお力添えをたまわりたく存じます。本年も、引き続き温かく力強いご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

令和8年5月

日本赤十字社 社長

清家 篤